

住宅リフォーム促進事業制度は新年度から拡充 予算議会初日の総括質疑に5議員登壇

2月26日から予算議会が始まりました。この日は、市長の提案理由の説明後、杉田議員、牧田議員、栗田議員、宮川議員、上野議員の5人が登壇し、総括質疑を行いました。全体として、市民生活に係わる重要問題が取り上げられていて、熱い議論が交わされたと思います。

新型コロナウイルスの問題は杉田議員を始め、5人全員がとりあげました。このうち、PCR検査については昨年末から介護施設や障害者福祉施設に新たに入所する人にも広げられましたが、その数は35人でした。今後、PCR検査はそうした施設や保育園、病院職員などにも広げていくことが重要です。



住宅リフォーム促進事業、令和2年度事業との比較

項目	令和2年度	令和3年度
事業規模	5500万円	1億円
補助上限額	10万円	15万円
補助対象工事費	20万円以上	10万円以上
補助回数制限	(同一所有者の同一建物) 1回限り	既交付者なども申請可 (1回/年)
募集期間	春1回	春/秋の2回

新年度から住宅リフォーム促進事業制度が拡充されます。補助限度額は10万円から15万円に引き上げられ、申請はこれまでこの制度を使ったことがある人もできます。関係業者の皆さんの売り上げが落ち込んでいるなかで、資金繰りの助けになるはずで、日本共産党議員団はこの制度の創設を提案し、その後は今回のような改善措置を一貫して求めてきただけにうれしいですね。牧田議員の質問に市長

は、「少なくとも10倍の経済効果がある」と答えていました。



【オウレン】(再掲) キンポウゲ科の多年草。これも春を告げる代表的植物の一つです。漢字で「黄連」と書きます。花期は3~4月ですが、今年は平年よりも10日ほど早く白い花を咲かせています。花言葉は「変身」「揺れる心」。写真は2月27日、吉川区代石にて撮影しました。

原子力災害対策では上野議員が避難対策等をとりあげ、「実効性のある対応が求められる」と。豪雪時の対応、新型コロナウイルスなど新たな課題については一定の時間がかかることだが、避難経路を重点的に除雪すると言っても、そこに出る道はどうなるのか。また除雪作業員の被ばくをどう防ぐのか、指し示していただきたい」と厳しく追及しました。こうしたことに時間がかかるなら、実効性のある避難計画ができるまでは少なくとも再稼働はしない、させないことが重要です。

農家負担ゼロの事業 なぜ取り組まないのか

1日の農政建設常任委員会審査で私は、「環境省の災害廃棄物処理事業を活用して市町村が主体となって取り組めば、撤去から処分に至るまで農家負担なしでできたはずだ。それを選択しなかった理由は何か」と質問しました。

これにたいして担当部長は、「環境省の事業では、ハウスや農作物等が長期間放置され、新たな災害等で周辺環境に支障を及ぼすことがあり認められる場合がある」と答えた。この要件からいうと(適用は)「困難だ」と答えた。

私は、「強風によって物が飛んだり、野菜が腐ったりすることなどもあるかも知れない。柔軟な対応をしてほしい。冬場、上越で農業をやっている方にはそれなりの必死の努力がある。冬も農業やっている人たちの意欲をそがないよう、行政の全面的な支援が必要だ」と訴えました。

はしづめ法一の 活動レポート

No.2001 2021.3.7
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
 「ホーセの見
 てある記」は
 ← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い 第六四八回 母のユーモア(2)

二月は母の通院日が二回ありました。そのうちの一回は一二日でした。この日は午前に市議会の委員会があつて大忙しとなりました。

当初の予定よりも少し遅く介護施設に到着。すぐに母を車に乗せて病院へと向かいました。

このところ、母の通院日は必ず晴れてくれるので助かります。この日も青空が広がっていました。助手席に乗った母は、車の前方や横の景色が気になるらしく、「ここは下町か」などと声をかけてきます。

「この日は遠方の景色もよく見えました。」
「とちや、あれ妙高山か」
「そだよ。隣の尾神岳みたいな格好してるが黒姫」

「そいがか。春になればウド出るだろうな」
「どうだかなあ……。でも、おまん、えらいもんだ」

長年にわたって山菜採りをしてきた母は、山を見れば、山菜のことがまず頭に浮かぶようです。おそらく、妙高山などの山を見ただけで、母は虫場や半入沢の山の斜面に生えているウドを思い浮かべるのでしようね。どうあれ、まもなく九七歳になるうとしていいるなかで、山菜への強い関心はたいしたものですね。

病院では、お世話になった元市役所職員の前で偶然会いました。私と母が待合室でじっとしていたら、「この方がお母さんでいなるですか」と笑顔で声をかけてくださいました。Hさんは、私の書いた本を何冊か購入してくださっていますので、母のことはよくご存じなんですね。

さて、診察の時間です。この日は看護師さんではなく、直接、担当のお医者さんから「橋爪さん、お入りください」と声がかかりました。

診察室では、いつものように「おばあちゃん、どこか具合悪くないですか」とい

うお医者さんの言葉から始まりました。この日も母は、「どこも具合悪くないです」と答えていました。母は心臓病で昨年二度入院し、その後はずっと通院で診てもらい、体調を維持してきました。この日は血液検査のときに「痛い」と言ったくらいで、あとはすんなり終わりました。

病院での診察、薬局での薬の購入を済ませて、帰りの道を走り始めてまもなく、左手に緑色をバックにした白いカタカナ文字の看板が目に入りました。母も同じように、その看板を見ていたようです。

「あの看板は店か」
「よく見えるねえ、えらい、えらい」
「だって、おれ、目、付いているもん」
「ははは」

この日の一週間前の眼科の検査では、母の視力は一・〇と〇・八で私よりも良かったのですが、それにしても歳の割に目がいなと感心しました。そして何よりも母の返してくる言葉にユーモアがありました。

この日は思ったよりも薬局などで時間がかかったこと、夕方に別の用事があったことから、母が入所している施設に急ぎました。私の急ぐ様子は母にも伝わったようです。

「とちや、きょうはナルス寄らんととととと帰るがな」
「時間ねえがどね」
「寄れば、買い物しちゃうもんな」

車の中の母の言葉はストリートです。自分の思っていることをそのまま言葉にしています。そばで誰かが聞いていれば、おかしくて笑ってしまうでしょうね。

病院から施設に戻ったのは、午後四時半近くになっていました。母を車から降りして帰ろうとしたとき、「じゃ、また来るすけね」と言ったら、「おまん、どこへ行くが」。母の顔はさみしそうでした。私は逃げるようにして車を走らせました。

活動レポート2000号到達にお寄せいただいたメッセージ



- ◇●2000号発行おめでとうございます。毎回楽しみに読ませていただきます。詳しい解説もとても有難いです。これからも楽しみに読ませていただきます。(Tさん)
- ◇●毎週ワオ!毎日ドヒャ!余人には出来ません。(Oさん)
- ◇●素晴らしいですね。「継続は力」と一口に言いますが、その時々忙しい活動の中で、きちんと行っていくことは並々ならぬ苦労と努力が必要です。本当に素晴らしい一言です。今後も宜しくお願いいたします。(Kさん)
- ◇●すごいですね。いつもあったかい感じの編集に励まされています。スケッチや写真もほのぼのします。フェイスブックの写真にはいつも感動しています。自然の美しさをとらえる一瞬の視点、すごい。(Yさん)
- ◇●おめでとうございます。“継続は力なり”ですね。怠け者の私には真似のできないことです。(Mさん)
- ◇●2000号 気の遠くなるような数字です。継続することだけでも大変なのに、肩肘張った感なくやっておられることに、「すごい!」しかありません。

- 「春よ来い」のあったかい文章に癒されている人も多いのではないかと思います。これからもずっと続けてください。(Rさん)
- ◇●2000号おめでとうございます。少しとした歴史の重みを感じますね。お身体大切に、引き続き頑張ってください。(Iさん)
- ◇●毎週発行!凄いいことですね。2000号達成!おめでとうございます!(Kさん)
- ◇●おめでとうございます。継続は力ですね。見習いたいです。(Mさん)
- ◇●おめでとうございます。これを楽しみに読みながら共産党を理解し近づいてくださった方がどれ程多いことか。これからもずっと続けて下さいませ。(Sさん)



上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月24日(水)	3月3日(水)
上越南消防署	0.043	0.057
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.057	0.053
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.063	0.063
東頸消防署	0.057	0.053
名立分遣所	0.050	0.053
高士分遣所	0.043	0.057

春よ来い 第六四八回 母のユーモア(2)

二月は母の通院日が二回ありました。そのうちの一回は一二日でした。この日は午前中に市議会の委員会があつて大忙しとなりました。

当初の予定よりも少し遅く介護施設に到着。すぐに母を車に乗せて病院へと向かいました。

このところ、母の通院日は必ず晴れてくれるので助かります。この日も青空が広がっていました。助手席に乗った母は、車の前方や横の景色が気になるらしく、「ここは下町か」などと声をかけてきます。

「この日は遠方の景色もよく見えました。」
「とちや、あれ妙高山か」
「そだよ。隣の尾神岳みたいな格好してるが黒姫」

「そいがか。春になればウド出るだろうな」
「どうだかなあ……。でも、おまん、えらいもんだ」

長年にわたって山菜採りをしてきた母は、山を見れば、山菜のことがまず頭に浮かぶようです。おそらく、妙高山などの山を見ただけで、母は虫場や半入沢の山の斜面に生えているウドを思い浮かべるのでしようね。どうあれ、まもなく九七歳になるうとしていいるなかで、山菜への強い関心はたいしたものですよ。

病院では、お世話になった元市役所職員の前で偶然会いました。私と母が待合室でじっとしていたら、「この方がお母さんでいなるですか」と笑顔で声をかけてくださいました。Hさんは、私の書いた本を何冊か購入してくださっていますので、母のことはよくご存じなんですね。

さて、診察の時間です。この日は看護師さんではなく、直接、担当のお医者さんから「橋爪さん、お入りください」と声がかかりました。

診察室では、いつものように「おばあちゃん、どこか具合悪くないですか」とい

うお医者さんの言葉から始まりました。この日も母は、「どこも具合悪くないです」と答えていました。母は心臓病で昨年二度入院し、その後はずっと通院で診てもらい、体調を維持してきました。この日は血液検査のときに「痛い」と言ったくらいで、あとはすんなり終わりました。

病院での診察、薬局での薬の購入を済ませて、帰りの道を走り始めてまもなく、左手に緑色をバックにした白いカタカナ文字の看板が目に入りました。母も同じように、その看板を見ていたようですよ。

「あの看板は店か」
「よく見えるねえ、えらい、えらい」
「だって、おれ、目、付いているもん」
「ははは」

この日の一週間前の眼科の検査では、母の視力は一・〇と〇・八で私よりも良かったのですが、それにしても歳の割に目がいいなと感心しました。そして何よりも母の返してくる言葉にユーモアがありました。

この日は思ったよりも薬局などで時間がかかったこと、夕方に別の用事があったことから、母が入所している施設に急ぎました。私の急ぐ様子は母にも伝わったようですよ。

「とちや、きょうはナルス寄りらんとととと帰るがな」
「時間ねえがどね」
「寄れば、買い物しちゃうもんな」

車の中の母の言葉はストリートです。自分の思っていることをそのまま言葉にしています。そばで誰かが聞いていれば、おかしくて笑ってしまつてしまうでしょうね。

病院から施設に戻ったのは、午後四時半近くになっていました。母を車から降ろして帰ろうとしたとき、「じゃ、また来るすけね」と言ったら、「おまん、どこへ行くが」。母の顔はさみしそうでした。私は逃げるようにして車を走らせました。

苦しかった1年を乗り越えて卒業式…吉川中学校

ニュースフラッシュ

吉川中学校の卒業式が3日に行われました。今回は27人が卒業しました。毎年、卒業式では感動をもらっているのですが、今回は新型コロナウイルス感染症と豪雪というたいへんな1年を経た卒業式だったこともあって、これまで以上に大きな感動をもらった卒業式となりました。

今井校長は「はなむけの言葉」の中で、全国一斉休校や各種教育活動などの中止でウイルスに翻弄されたが、例年通りいかなかったことで得たものもあったとして、「修学旅行の中止の代わりに取り組んだ思い出づくりしーションでは、花火や肝試しなどをやり、みんなで楽しむことを学んだ。運動会や音楽祭を無事に成し遂げたことで絆はいっそう強まった」とのべました。そして、「柳に雪折れ無しと言われている。しなやかに自分らしく生きていってほしい」と訴えました。

卒業生を代表して「巣立ちの言葉」をのべた佐藤太毅さんは、「自らの手で夢をつかむために吉中を卒業します。(中略) 当たり

前のことができず、仲間とも会えなかったが、常に全力でかけつけてきた。音楽祭では最高の合唱を披露できたし、思い出づくり活動では、自分たちの企画で一人ひとりが楽しい1日を過ごすことができた」とのべました。そして、「私たちはたわいもないことで泣き、笑い、ともに高めあってきた。吉中の思い出は一生忘れない」と結びました。

卒業式の会場は今年もサクラが満開でした。職員さんがこの日のために開花の進み具合を調整したのですが、見事でした。とても素晴らしい卒業式でした。



上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことですよ。

	2月24日(水)	3月3日(水)
上越南消防署	0.043	0.057
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.057	0.053
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.063	0.063
東頸消防署	0.057	0.053
名立分遣所	0.050	0.053
高士分遣所	0.043	0.057